

景観まちづくり学習助成事業実施校
学習指導案

学校名 相模原市立大島小学校

プログラム	No. 02「これはどこだ？さがしてみようまちパーツ」
単元名 (全5時間)	これはどこだ？さがしてみよう大島まちパーツ
学習のねらい	社会科の学習での町たんけんのきっかけとし、身近な景観を構成する要素の多様性に気付き、その特性を感覚的に把握する。 地域の魅力や景観を見つめ直す方法における新たな視点としたり、発信したりすることの楽しさを味わう。
学習内容	1 出会う：無意識のまま眺めていた景観の中に様々な表情があることを知る(素材との出会い) 2 つくる：地域にあるおもしろいと感じたものの写真を撮り、問題を作る。写真をもとに、ワークシートを作成する。 3 さがす：ほかの班が写したものの場所とそのもの自体を探す。 4 気付く：さまざまな素材に囲まれて生活していることに気付く。
参考資料 準備品 実施場所等	準備物：デジタルカメラ(グループに1台) バインダー 筆記用具 コンピュータ プリンタ 地域の地図 場所：教室 学区内

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	○教師が撮影した写真から、どこにそれがあるかをクイズ形式で考える。 ○撮影手順とカメラを扱う際の注意点を確認する。	○一部分を見せ、その写真が校舎内のどこにあるのかを考えさせる。 ○カメラの使用方法を伝え、周囲の状況に注意しながら撮影させるようにする。	○校舎内の景観について興味をもって、調べようと考えている【主体的に学習に取り組む態度】
2 ~ 3	○グループごとに、事前に決めておいた地域で、まち探検をする。 ○見つけたものを写真に撮り、場所を地図に記録する。	○交通ルールを守り、安全に留意しながら町探検ができるように言葉かけをする。 ○町の特徴となっている建物やシンボルマークとなっているような物を撮影できるようにする。	○学区内の地図に、撮影場所を記録することができる【知識・技能】
4	○まち探検で撮影してきた写	○町の景観を構成している要素を	

5	<p>真をもとに、大島まちパーククイズを考える。</p> <p>○大島まちパーククイズ大会を開催する。</p> <p>○これまでの活動を振り返り、学習のまとめをする。</p>	<p>クイズの題材にできるようにする。</p> <p>○どこに何があるのかだけでなく、その場の風景や景観を構成しているものには様々なものがあることに気付かせるようにする。</p>	<p>○町の景観を構成している要素にはどのようなものがあるか考え、クイズ形式で表現している。【思・判・表】</p>
---	---	---	---

< 留意点 >

- 校外に出る際は、体調管理の確認とともに、児童同士の感覚に配慮することが必要。
- 場合によっては、引率教諭を増やしたり、保護者ボランティアを募ったりする。
- グループごとに機器操作の説明を十分行い、安全に配慮して学習を行う。

事業実施報告書詳細

学校名 相模原市立大島小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1	教室	<p>教師が撮影した写真から、学区内のどこにそれがあるかを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式で考え、自分たちでもクイズを作りたいという思いをもつ ・まち探検の計画をたてる 		<ul style="list-style-type: none"> ・学区にこんなところがあったかな? ・自分も見つけて、クイズで紹介したい
2・3	地域	<p>グループごとに、まち探検をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけたものを写真に撮り、場所を地図に記録する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・来たことがあるのに気付かなかった ・いつも見ている景色でも、クイズにできそうだな
4	教室	<p>まち探検で撮影してきた写真をもとに、大島まちパーツクイズを考える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・町のパーツがクイズになって楽しいな
5	教室	<p>大島まちパーツクイズ大会を開催する。</p> <p>これまでの活動を振り返り、学習のまとめをする。</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> ・大島にも、まだまだ知らない町パーツがあるんだな ・もっと地域のことを知りたいな

実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

児童が興味をもってまちパーツクイズ作りに取り組めるよう、児童が意外に思うような写真を教師からクイズ形式で提示した。コロナ禍で、休校明けすぐの実施だったが、十分な感染拡大防止策をとって、実施した。(2)の苦労にもつながるが、分散登校期間をうまく活用し、半数ずつの児童で実施することで、引率の負担を減らした。

(2) 実施にあたり苦労した点

コロナ禍ということもあり、保護者ボランティア等での見守り体制に不安があった。担任以外の引率を依頼し、複数名で引率した。

(3) 児童の反応

分散登校期間をうまく利用したため、自分と同じ日に登校しない友達向けにクイズを考えることで、ワクワク感をもってクイズ作りを進めることができた。意外な

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

日頃の教育活動において、地域に目を向ける際に、人やできごとだけでなく、古くから大切にされている施設や、道、風景など、様々な点に目を向け、児童とその価値についても考えていくことが必要だと感じるようになった。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

児童が、まちの景観に目を向け、大切に思う気持ちを育んでいくためには、単年ではなく複数年で計画的に学習を進めていく必要があるように感じるとともに、毎年のカリキュラムの中に浸透させていく必要性を感じた。